広瀬研だより　ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

Text＝Rie Nakano
Photo＝Rie Nakano,
Tohru Iseto and Nagisa Sugiyama

琉大理学部生物系12ヶ月　第14回

01

02

03

06

本土で暮らすほとんどのダイバーは、沖縄を「常夏のダイビングパラダイス」だと思っているのではなかろうか。

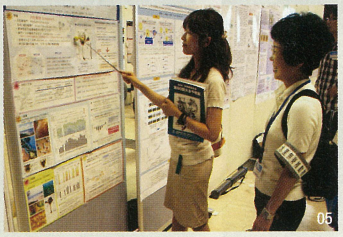
たしかにハイビスカスやブーゲンビリヤは年中咲いているし、晴れれば冬でも海は青く輝く。しかし実際に暮らしてみると、沖縄にも四季があることがわかってくる。私の個人的な感覚だが、移住1年目には「暑い」→「ものすごく暑い」→「暑い」→「涼しい」程度にしか感じなかった季節の変化を、今では「暖かい」→「暑い」→「涼しい」→「寒い」と感じ分けられるようになった。長袖Tシャツ+トレーナー程度の軽装で那覇空港に降り立ったダイバーの友人をダウンジャケット姿で出迎え、「寒いから今晩は鍋にしよう」と提案してその友人に怪訝な顔をされるようになれば、あなたも立派な沖縄人である。

もちろん海の中にも四季はある。私の場合はウミウシの種数の増減で季節の移ろいを感じる。水温が20度近くまで下がり、ウミウシがちらほら見られるようになると「やっと冬になった」と小躍りする。水温と気温が上昇し、ウミウシが減ってくると「夏が来てしまった」と悲しくなる。対照的にサンゴの研究者は夏（産卵の季節だ）に小躍りする。

理学部生物系に在籍していると、研究材料のみならず、学生の行動からも季節の推移を感じることができる。

4月。入学式の直後から生物系のサークルが新歓活動に励み、その結果として本土から加入した若い個体（主に18～20歳）がおっかなびっくり沖合に泳ぎ出す姿が沖縄本島沿岸の随所で観察できる。加入1年目の若者の特徴は、①色が白い②小綺麗である③自動車の免許を持っていない、等である。

5月。1年生がサークルなどにニッチを得て、羽目を外し始める（これを「ハッチアウト」という）。いっぽう4年生は就職活動の真っ最中。折しも沖縄は入梅を迎え、褐色だった4年生の肌に本来の白さが戻り始める。稀に内定がもらえず青白くなる個体もある。


05

6月、梅雨が開け、学生の沖合出現率が著しく高まる。7月、前期の期末試験のため学生の沖合出現率はいったん低下する。8月中旬になると、大学院への入学試験を控えた4年生以外のほとんどがハビタット（生息地）を学内から沖合に移してしまう。中には行ったきり学内に戻ってこない学生もおり、こうした死滅回遊学生は毎年全学生の1%を占める。

9月の沖縄は、時々台風が襲来するが、まだ夏真っ盛り。しかも学生はまだ夏休み。さらにこの月は国内で多くの学会が開催され、研究室から教授の姿さえ消える。ゆえに学内人口が最も減少するのは9月であると言える。

10月、後学期開始。しかし学生の沖合出現率は依然高いままである。

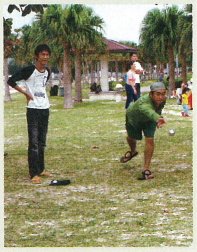
11月、気温が低下し、5ミリのワンピースしか持っていない学生の沖合出現率が低下する。ワンピースからツーピースに脱皮した学生の沖合出現率は12月になっても変化なし。しかし卒業論文や修士論文の執筆に入るため、4年生や修士2年の沖合出現率は著しく低下し2月末まで回復しない。1月から2月にかけては気温と水温の低下に加え、学期末試験のために3年生以下の学生の沖合出現率も著しく低下する。したがって2月に嬉々として沖合に出現するのは、①厚手のツーピースを持ち②卒業論文や修士論文を書かなくてよい身分であり③研究している動物が冬に多く見られる、という条件を満たした学生だけである。って、これ、今年の私のことですがな。

そして3月。学内は解放感に満ちあふれ、学生の沖合出現率は一気に上昇する。このように理学部生物系の学生は、気温と水温の変化に応じて学内・沖合間を楽しく回遊して数年間を過ごす。沖合の好きなご子息ご息女をお持ちのあなた、あるいはあなたご自身に、琉大理学部生物系はお勧めですよ～ん。

04

（01･02）広瀬先生の春の実習。正確には「熱帯生命機能学実習Ⅳ」。受講生全員で海に行って岩や海藻などを採集、実験室に持ち帰ってその中から体長1cm以下の無脊椎動物を探し出す。それを実体顕微鏡で観察してスケッチし、光学顕微鏡と電子顕微鏡で撮影し、粘土で造形して色を塗る。フィギュアを作ることで動物の形態を立体的に理解することができる。（01）完成したフィギュア。（02）先生の指導のもと動物を走査型電子顕微鏡で撮影。（03）初夏、農学部の小西研究室と合同で、西海岸へチドリミドリガイを採集に。（04）実験室に持ち帰ったチドリミドリガイ300個体。粘液を採集した後、海に返した。（05）9月、日本動物学会静岡大会でポスター発表を行う修士2年の杉山渚さん。（06）広瀬研の忘年会。院生の太田悠造さん（右）が作ったチャツボボヤ帽子をかぶる広瀬先生。写真01, 02＝中野理枝、04, 06＝杉山渚、05＝伊勢戸徹

毎年10月、3年生が各研究室に配属され、各研究室はそれぞれ意匠をこらした新歓を催す。広瀬研究室では本島西海岸の某公園にて新歓ピクニック+ペタンク大会を行うのが恒例となっている。ペタンクとは金属製のボールを小さな目標球に向けて投げ、目標球からの距離で得点を競うフランス発祥のゲーム。1対1のトーナメント戦で、ボールを対戦相手より目標球に近づけることで勝ち上がっていくのが広瀬研ルール。優勝から3位までは広瀬先生から賞品が授与されるとあって各員かなり本気。しかし先生にはなかなか勝てない。写真＝杉山渚



文＝中野理枝

Profile≫'87年OW取得。'96年頃ウミウシに開眼。小野篤司さんの『ウミウシガイドブック1』『沖縄のウミウシ』を編集。『本州のウミウシ』を編集・執筆。'09年4月、琉球大学大学院 理工学研究科 博士後期課程に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事を続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に邁進中。昨年9月に2本目の投稿論文が受理された。現在3本目に取り組み中。➡hofukutei.exblog.jp

監修＝広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile≫'91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、'97年より琉球大学に勤務。生物系では海モノだけではなく、陸上・陸水の動植物や森林生態の研究室もあり、フィールド主体の生物学に興味がある人にはオススメ。なお大学院には社会人枠もありますヨ。
➡www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ